

第6回経営協議会 議事要録

- 1 日 時 令和6年1月26日(金) 13時30分～14時53分
- 2 場 所 特別会議室(本部棟3階)
- 3 出席者 佐古議長, 梅津委員, 美馬委員, 田中委員, 高橋委員, 秋田委員
有馬委員, 池上委員, 工藤委員, 榊委員, 吉岡委員, 米澤委員
- 欠席者 泉委員
- 陪席者 近藤監事, 井関監事
(※榊委員, 米澤委員はオンライン参加)

議事に先立ち, 佐古議長から, 令和5年11月～令和6年1月にかけての本学の新聞報道等について報告があり, 引き続き, 議事の進行上, 「報告事項(1) 令和6年度予算の内示について」を行ってから, 「議題(1) 令和6年度学内予算編成方針について」を行う旨説明があった。

4 議 題

(1) 令和6年度学内予算編成方針について

【資料1】

高橋委員から, 資料1に基づき, 令和6年度学内予算編成については, 学長のリーダーシップの下, 本学が担うミッション実現のために必要な取組を推進し, 社会的インパクトの創出に向けた戦略的な機能強化を図るための重点課題や政策課題を柱とする予算の枠組みとし, 令和5年度第5回経営協議会で報告した財政シミュレーション及び本学の取り組むべき課題への対応を予算編成に反映させる旨の説明があった。また, 本学が担うミッション実現のために必要な取組を推進し, 社会的インパクトの創出に資する取組「鳴教のこれから(5本柱)」においては, 取組状況を勘案し, 重点的に予算配分を行う旨説明があり, 審議の結果, 原案のとおり, これを承認した。

[本学が取り組むべき課題]

【支出予算関係】

1. 目的積立金の活用
2. 管理運営予算, コース予算, 附属学校運営予算の削減
(管理運営予算, コース予算, 附属学校運営予算の▲10%～▲20%削減)
3. 人件費の抑制
4. 予備費の圧縮

【収入予算関係】

5. 自己収入の増

[予算編成上の優先事項]

- ・ 鳴門パースペクティブ・教員養成DX推進機構
- ・ セルフデザイン型教師教育

- ・ 教職大学院遠隔教育プログラム
- ・ オーダーメイド型学校支援（社会的インパクト創出型支援）
- ・ 教育委員会との連携による現職教員研修モデルの開発
- ・ S T E A M I C 教育の実践研究
- ・ 四国地区 5 大学連携教職課程
- ・ 教育・研究基盤経費の確保

（２）第４期中期計画の変更について 【資料２－１～２－２，参考資料１】

佐古議長から、資料２－１，２－２に基づき、第４期中期計画を変更することについて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

なお、今後、役員会の議を経た後、１月末までに文部科学大臣宛て変更申請する旨の説明があった。

（３）その他

特になし

５ 報告事項

（１）令和６年度予算の内示について 【資料３】

高橋委員から、資料３に基づき、令和６年度国立大学関係予算（案）の概要について報告があった。

また、令和６年度概算要求事項の教育 DX による「ハイフレックス授業環境」及び「EdTech を活用した協働学習実践環境」整備や、施設整備費補助金の「（高島）共通研究D棟改修【I期】」について、令和５年度補正予算での内示について報告があった。

なお、「成果を中心とする実績状況に基づく配分」は、現状において令和５年度の 90.0%から 94.3%に向上しているが、全体として本学予算が減額されていることや、次年度の人事院勧告及び光熱費次第で大学の財政が厳しいものとなるため、積極的に教育研究組織の改革を行い運営費交付金の増額をしていくことが必要である旨の補足説明があった。

（２）国立教員養成大学・学部（教員養成課程）の令和５年３月卒業者の就職状況について 【資料４】

田中委員から、資料４に基づき、文部科学省において公表のあった、国立の教員養成大学・学部及び教職大学院の卒業・修了者の教員就職状況について、本学は、学校教育学部が 88.2%（進学・保育士除く就職率）、教職大学院が 89.2%であり、

3年ぶりに本学学校教育学部¹の教員就職率（進学・保育士除く）が、全国第1位になった旨の報告があった。

（3）その他

特になし

議事終了後、本学の運営等全般について、各委員間で意見交換が行われた。
次回経営協議会は3月25日（月）13時30分から開催予定。